

水原先生とのお別れに際して

小林 弘人

水原泰介先生が本学に専任教授として赴任されたのは、昭和57年4月である。丁度同じこの年に、留学ボケも少しさめた私が学科主任の大役をおおせつかっています。

先生とは、学問の研究領域がことなるので会議の時位しか直接お会いして、お話しをする機会はなかったのですが、それでも学問に対する基本的姿勢や学科運営等についてのご助言、ご指導を頂いております。

数少ない先生とのお付き合いの中での1・2の思い出を述べさせていただきます。(ご業績については中村教授などの別稿に譲ります)。

私が主任になってかなり早い時期に学科発展のために「コース制」に変えて「専攻制」を導入したらどうかとの議題が提案されたことがあります。この議題について少人数による委員会で検討がなされたのですが、その時に先生と私との間で学問論やその他のことがらについて、かなりきびしい論争をしたことがあります。先生の話し方は、流暢というよりは、むしろトツ・トツとした話し方ではありますが絶対に自己の主張を曲げないようなところがありました。また、人工透析をなされ、かなり病状が悪化しているにもかかわらず、車イスを使って講義をなされたことがあります。事務当局からは、駒沢大学は殺人者にはなりたくないのので何とか講義を中止して頂くようお願いをしてくれとの要請を私にしてみました。

幸い私の要請を容れて休職して頂いたのですが、この休職中にも、学科運営

上自分の名前が少しでも役にたつならば利用して下さいとの伝言を頂いております。このように、先生にはガンコな面もお持ちではありましたが、非常に責任感の強い人であったと思います。しかし、その先生とは、「論争」をしたくてもできません。

今は、先生の志をついで、何とか新しい学部の設立のために、私なりに努力しようと気持ちを新たにしています。

先生のご冥福を衷心よりお祈りいたします。